

弘前大学 農学生命科学部 生物学科

弘前大学農学生命科学部生物学科では、生態学・環境生態学・動物行動学を専門とする3つの研究室が、青森の豊かな自然の中で、フィールド調査から分子解析まで多角的な手法を用いて研究を行っています。



東 信行 教授

AZUMA NOBUYUKI

野生動物の保全・管理及び 生息環境評価

鳥類や魚類を主な対象として、基礎的な生態から保全、さらには管理に関する研究を行っています。



移動回遊履歴や生息場選択

生体内元素分析・安定同位体分析（鳥類の場合は羽毛）などを利用した移動履歴推定とGPS発信機・ジオロケータなどを利用した鳥類の移動追跡や生息場所利用の解明を行っています。

曾我部 篤 准教授

SOGABE ATSUSHI

環境DNA、メタバーコーディング を用いた共存メカニズムの解明



青森県内に魚食性鳥類であるカワウとウミウ、アオサギの3種が、同じ時期に同じ場所で営巣している混合コロニーがあります。

同じ資源を利用する種間なので競争的排除が働きそうですが、3種は仲良く共存しています。

競争を緩和するどのようなメカニズムが働いているのでしょうか？

回収した糞のメタバーコーディング解析を行い、3種の鳥類の食性を比較することで共存機構を明らかにしたいと考えています。



ムラノ 千恵 助教

MURANO CHIE

果樹園における野生動物の 生態調査と個体数管理

ハタネズミによる果樹被害を抑制するため、捕食者を誘引することによる個体数抑制効果の推定など、殺鼠剤に頼らない害獣管理の在り方を研究しています。



発信機や自動撮影カメラ による野生動物研究

小型のGPS発信機によって猛禽類の行動を追跡して通年の捕食者効果を推定したり自動撮影カメラによって野生動物の農地の利用頻度を調査したりすることによって、農地を利用する野生動物の生態把握や、生態系保全の在り方を研究しています。

これまで3つの研究室で調査が行われてきた鳥類種：
フクロウ、ノスリ、カラス類、ゴイサギ、オオセッカ、カワウ、オオヨシキリ、コヨシキリなど



弘前大学 農学生命科学部 生物学科
青森県弘前市文京町3 0172-39-3748

